

【協働型学校評価の協働目標】

自分の思いを最後まで話すことができる児童の育成  
 みんなの合い言葉「自分の思いを最後まで話しましょう」

【協働型学校評価の重点目標】 \*提案

自分の思いを最後まで話すことができる児童の割合「Aできた」を、**全体の6割以上**にする。  
 ☞自分の思いを、目的を考えて順序よく、相手の顔を見て、最後まできちんと話すことができるようにする。

【重点目標実現のための三者（学校・家庭・地域）の働きかけ<改善活動>】

児童の取り組み	学校のはたらきかけ	家庭のはたらきかけ	地域のはたらきかけ
<ul style="list-style-type: none"> <li>◆自分の話し方・聞き方のめあてをたてる</li> <li>◆朝の会、帰りの会、授業、学校生活全般において、「相手に伝える話し方」「経験と比べた聞き方」に心がける</li> <li>◆「あいさつ運動」「子供会・地域の行事」に積極的に参加する (コミュニケーションの場)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆学習指導・学校生活全般を通して、よく聞き最後まで話す指導をする</li> <li>◆ソーシャルスキルを踏まえ、場に応じた基本的な話し方、聞き方を指導する</li> <li>◆児童の話を最後まで聞く</li> <li>◆児童が、応対が上手にできたときは、ほめる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆家庭の実情に応じた「話し方」「聞き方」の目標を設定する</li> <li>◆児童の話を最後まで聞く</li> <li>◆児童が、応対が上手にできたときは、ほめる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆行事等で、積極的に児童に話しかける機会を多くする</li> <li>◆児童の話を最後まで聞く</li> <li>◆児童が、応対が上手にできたときは、ほめる</li> </ul>

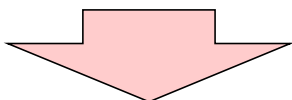
<平成28年度の取り組みから>

立町小学校では平成22年度から協働型学校目標の協働目標を「自分の思いを最後まで話しましょう」とし、学校・家庭・地域の三者協働で児童に働きかけてきた。本年度はその6年目である。

12月に実施した児童の自己評価では、「Aできた」が51%、「Bややできた」が32%であった。このことから、83%の児童が肯定的な評価をしていることが分かった。

保護者のアンケートでは、「自分の思いを最後まで話すことができるよう働きかけ、子どもはできている」の設問に対し、「Aできた」が16%、「Bややできた」が64%であった。また、教職員の自己評価「指導により協働目標が児童に定着したか」では、「Aそう思う」が17%、「Bややそう思う」が75%であった。保護者と教員ともに、肯定的評価は80%を超えたので、おおむね達成されたとはしているが、A評価は下がっているため、まだ十分ではないという認識を持っていることがうかがえる。

AB評価を合わせると、学校・家庭・児童のいずれも達成率が約8割に達しているが、重点目標である児童の自己評価「Aできた」が6割に達していないので、さらに働きかけを工夫・改善していく必要があると考える。



次年度も、協働目標「自分の思いを最後まで話しましょう」への取り組みを継続し、自分の思いを、目的を考えて順序よく、相手の顔を見て、最後まできちんと話すことができる児童の育成に努める。

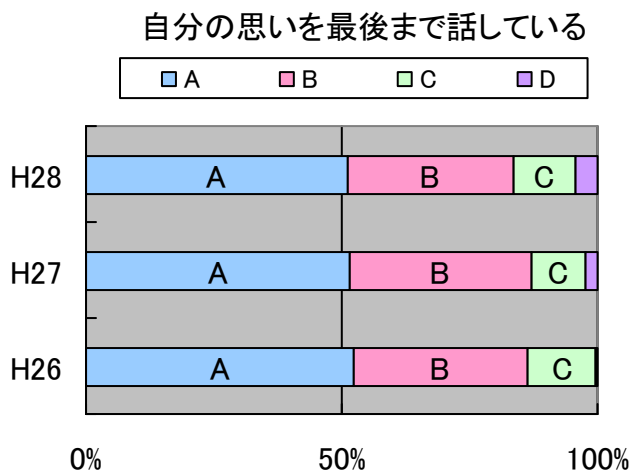
【平成28年度の評価】 ※12月実施

A：そう思う B：ややそう思う C：あまりそう思わない D：そう思わない

<協働型学校評価の重点目標（協働目標）>

<児童の自己評価>

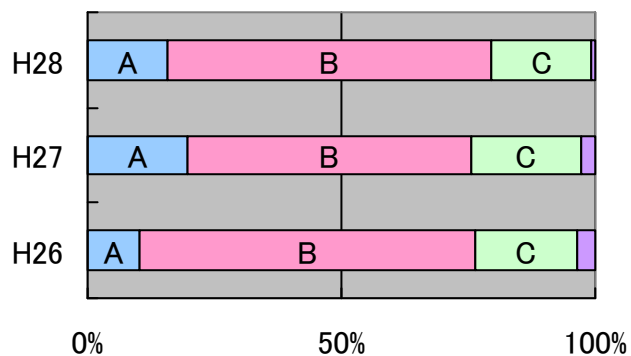
	H26	H27	H28
A	96人	93人	95人
B	62人	63人	60人
C	24人	19人	22人
D	1人	4人	8人



「自分の思いを最後まで話す」ことができるよう働きかけ, 子はできている

<保護者の評価>

	H26	H27	H28
A	14人	31人	25人
B	90人	87人	100人
C	27人	34人	31人
D	5人	4人	1人



指導により協働目標が児童に定着したか

<教職員の評価>

	H26	H27	H28
A	8%	31%	17%
B	92%	61%	75%
C	0%	8%	8%
D	0%	0%	0%

